

東風見聞録

平成23年4月発行 通巻42号

イーストウインド・プロダクション 田中正人・竹内靖恵

群馬県利根郡みなかみ町鹿野沢637-M302

電話・FAX 0278-72-9292

アドベンチャーレース in 中京

4月は名古屋、岐阜にてアドベンチャーレースのイベントを開催しました。今後も中部、関西でアドベンチャーレース普及のための体験会、レース、講習会等を開催していく予定です。

アドベンチャーレース説明会 in 名古屋

4/2(土)ウイंक愛知にてアドベンチャーレース説明会を開催しました。参加者数は30名(会場は満席)。中でもアドベンチャーレース未経験という方が8割でした。

田中正人による「アドベンチャーレースって何？」から始まり「アドベンチャーレースの真髄、醍醐味、面白さ、素晴らしさ、そして日本から世界にいたるまでの冒険レースの魅力」についてお話をさせていただきました。

また、ご参加くださった方より「すばらしいパワーをいただきました」「田中さんの貴重な体験を聞くことができ、とても嬉しく思います」「気持ち傾きつつあります」という言葉を頂きました。

ナビゲーション講習会入門編 in 名古屋

4/3(日)名古屋市大高緑地公園にて地図読み講習会を開催しました。

ご参加くださった方より「今までは地図読みのあるレースには及び腰だったのですが、これで世界が広がりました」「山に入ったときの不安を解消、地図を読めることで余計な不安がない分、万が一ロストしても落ち着いて対処できそう」「とても親切に解説いただき、和やかな雰囲気の中で講習会を受けることが出来ました」とのコメントを頂きました。



アドベンチャーレーストレーニングキャンプ入門編 in 岐阜

4/9(土)~10日(日)岐阜県郡上市のアウトドアツアー会社「アウトドアサポートシステム(ODSS)」のご協力のもと、アドベンチャーレース体験会を開催しました。

種目は1日目にラフティングとロープアクティビティ、2日目にナビゲーションとマウンテンバイクで、盛りだくさんのため、初心者のためのワンポイントを伝授。

参加者より「今まで、遠くて憧れていただけのアドベンチャーレースが近くに感じられるようになりました」「色んなことが、大変判りやすかったです。目から鱗状態の連続でした」との声を頂きました。



ARJS岐阜長良川大会 イーストウインド優勝

毎回コースが大好評のARJS岐阜長良川大会。今年の目玉はケイビング(洞窟探検)だが、その大会でチームイーストウインドが優勝した。メンバーは田中陽希、倉田文裕、和木香織利。田中正人は運営スタッフとして関わった。

国内レース初優勝となる和木は「優勝は妥当」というプレッシャーはメンバー全員感じていましたが、そのプレッシャーをプラスに持っていくことが出来て全員でチーム盛り上げつつ、良い緊張感を持って最後までレースを楽しめました。」とコメント。

ナビゲーション講習会 in 京都

5/7(土)京都にて初のナビゲーション講習会を開催いたします。内容は読図座学と実際に地図を読む実技です。

当講習は「ラン&トレイルランニング関西」の御担当者様よりご依頼をいただきました。※すでに定員に達していますので参加申込みは締め切っています。

イーストウインド これからの活動

アドベンチャーレース世界選手権に向けて始動

チームイーストウインドは今年11月オーストラリアのタスマニアで開催されるXPD Adventure Racing World Championship(世界選手権)に出場することが決まりました。

イーストウインドのメンバーはパタゴニアエクスペディションレースと同じく、田中正人、田中陽希、倉田文裕、和木香織利。

今回の参加チームは96チーム。世界のトップチームになるよう、がんばります。どうぞ次回のレースも応援をよろしくお願い致します。



大会ホームページ : <http://www.xpd.com.au/>

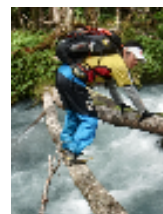
東風吹かば・・・

田中正人が会社務めを辞めてアドベンチャーレーサーに転向して今年で16年目。今までに多くの方に出会い、そのたびにあらゆる方面で多くの事を学ばせて頂いています。ここではそんな面白い方々を竹内靖恵がご紹介していきます。



新イーストウインドメンバー 倉田 文裕 (クラッチ)

トレイルランからアドベンチャーレースの世界に飛び込んで3年目。今年の春、チームイーストウインドのトレーニング生を修了し、正規メンバーになった倉田文裕(通称クラッチ)は、昨年、今年と世界最難レースと言われるパタゴニアエクスペディションレースに出場し、見事5位で完走。謙虚に、ひたむきにトレーニングを続ける姿は周囲から信頼が厚い。



不安いっぱい始めたトレーニング

竹内 「そもそもアドベンチャーレースって何で知ったの？」

倉田 「アドベンチャースポーツマガジン(山と溪谷社)です。当時はトレイルランをやっていて、その情報収集のために買ったんですけど、そこにイーストウインドのプライマルクエスト出場の記事があって、その写真にぐぐっと惹きつけられたんです。すごい世界があるんだなって。同じく第1期トレーニング生の記事もあって、そこに応募してみようと思いました。トレーニング生の条件でもある日本山岳耐久レース10時間内ゴールを目指しました。結果9時間40分というギリギリの時間で、これでは無理かとも思ったのですが、気持ちがそれ以上待ってられなかったんです」

竹内 「トレーニング生の条件にリバーガイドになることとありますが、それまではトレイルランをしていたクラッチにとっては新境地だったわけですよね？」

倉田 「ともかく不安の一言でした。正規ガイドになるまでは給料はないと聞いていたので経済的に不安。ラフティングだって乗ったことないのに、いきなりガイドトレーニングを始めて不安。カッパクラブ(イーストウインドがお世話になっているラフティングツアー会社)でちゃんとやっていけるのか不安。周囲に知っている人がいなくて不安。ある程度覚悟していたから貯金はあったんですが、それもすぐ消えると聞かされて不安…。それがカッパクラブでは無口な人って印象を与えてしまっていたようですが(笑)」

竹内 「かなりの心配性なんですね」

倉田 「はい。僕は怖がりですよ。初めてみなかみ町に来た夜、田中さんとヨーキくんが谷川岳へ雪山登山に連れて行かれたんですけど、雪山なんて初めての経験で、特にくだりが怖くて怖くて。アンザインレン(互いの身体を結び合って安全を確保すること)をしてても、初めて会った人たちが信じられるのか？この人たちが助けられるのか？考えると不安で一杯でした」

意識の高い先輩たちに引き上げられている

竹内 「リバーガイドになった今も不安？」

倉田 「いえ。もう今は大丈夫です。慣れたってことでしょけど(笑)。カッパクラブではトレーニング生のうちは給料を頂けなくても、食事や住居は面倒を見てくれます。お金が必要になるのは装備を揃える時ですが、これも急いで買わずに田中さんに相談しながら、自分のレベルに合った物を徐々にそろえていきました。何よりカッパクラブは先輩たちがとても良いんです。田中さんをはじめ、スノーボードデモの日本チャンプがいたり、トレイルランナーの横山峰弘さんもいるし、ラフティングで世界王者になったチームテイケイも増水期はここでトレーニングをしています。意識がとても高い人が多くて、その人たちに自分の意識を引き上げてもらっていると強く感じています」

竹内 「人間は環境の動物。自分の身を意識の高い人たちの間に置けば、それだけ自分自身も高まっていくと言う事ですね」

(右上へ続く)

竹内 「不安でも逃げ出さないのは立派ですね」

倉田 「人に愚痴を言うのが好きじゃないんです。変なプライドもあって。カッパの先輩に冗談で『もし途中で辞めたら、今までトレーニングとしてでもラフトに乗った回数分、ツアー代として頂くから』と脅されました。あ！逃げられないな～って思って(笑)」

最後までチームでいられたパタゴニアレース

竹内 「昨年、初めて世界の舞台(パタゴニアエクスペディションレース)に参戦したんだけど、出場が決まった時はどんな気持ちでしたか？」

倉田 「何日もの間レースを続けるのは初めてだったので何が必要なのか、どんな状態になるのかが不安でした。楽しみより不安の方が強かったですね」

竹内 「では今年、また出場が決まった時は？」

倉田 「出場が決まってからスタートまでに3ヶ月しかなかったし、女性メンバーは新しくなったので大丈夫かなとは思いましたが、昨年の経験もあるので不安はそれほどなかったです。それよりも今回は勝たなくちゃいけないというプレッシャーの方が強かったです」

竹内 「出場してみてどうでしたか？」

倉田 「喧嘩もあったけど、最後まで雰囲気良かった。ずっとチームでいられました。誰が今弱っていて、誰が今助けることができるのかを、それぞれが把握して、それを実行していました。レースの途中、天候によってコースがカットされましたが、もしカットされていなくても完走できる自信がありました」

竹内 「いつも不安を抱えるクラッチから『完走する自信がありました』と言う言葉が出るのは嬉しいですね」

倉田 「もちろん自分の力だけではありません。仲間がいたからそんな気持ちになれたと思います。チームでゴールテープを切った時の達成感は個人競技のゴールとまったく違った大きな感動がありますから」

自分の扉を開ける第一歩は飛び込むこと

竹内 「最後にイーストウインドのトレーニング生になろうか迷っている人にメッセージをお願いします」

倉田 「不安はあると思いますが、飛び込んでしまえば何とか大丈夫です。理想と現実のギャップはすべての事につきものです。最初の1年はガイドトレーニングもカッパクラブでの生活も新しい環境も苦しい事がありますが、その1年を乗り越えれば自信と信頼が生まれて、2年目からは楽しさに変わります」

倉田 文裕(くらた ふみひろ)

1981年長野県生まれ。服飾関係の職務を経て、2009年度チームイーストウインドのトレーニング生となる。普段は静かで謙虚だがレースではチームの縁の下の力持ちとなる機動的な存在。現在もカッパクラブでリバーガイドをしながらイーストウインドとして活躍中。